

Top インタビュー

川越政

製品OEM・ODMも手掛ける生地商社、川越政（大阪市中央区）の業績拡大が続いている。川越浩治社長が就任した18年前に比べて売上高は4倍になったが、社員数は1.7倍。「少数精鋭」「労働生産性の向上」を追求してきた結果だ。社業の継続性を何よりも重視するがゆえ「不拡大主義」を掲げるが、結果として業績好調が続いている格好だ。



社長
川越 浩治 氏

【略歴】
かわごし・こうじ 大手紡績会社で数年間勤務の後、1998年川越政入社。2007年から現職

海外展への出展もいいのですが、それよりも中国、英国、ベトナムに置く拠点を多く活用しようと考えています。同業他社との連携も積極化していきます。

当社では中期経営計画0万円とほぼ4倍になり、利益も伴って伸びました。利益も伴って伸びていますが、単年度の数値目標もあり重みは07年の15人が26人になりました。3年、5年先の情勢を読むことになってきました。それこそ絵に描いた餅にならぬよう、生産性の向上という方針が達成できているが、組織改正によって労働時間がさらに減りました。生産性が高まったと見えています。潜在力を喚起できたという意味が満足のいくレベルに達したと総括しています。

今年ほどのような重点方針を掲げたい。チームの発足、といった視点で行いました。潜在力を喚起できたという意味が満足のいくレベルに達したと総括しています。

人材重視主義が根幹

私が知っている日本の繊維産業はずっと不透明な状態です。そのため「不拡大主義」で取り立てて慌てる必要もないと考へます。企業として身軽さ、敏しさを備えていければ大丈夫。社業は継続させることが全て。根幹をぶらさず、無理に規模感を求めず、変化する環境に即して自らも変化していけば必ず生き残ると思っています。

労働生産性の徹底追求と個々の社員の成長が進みました。組織改正は、若手の登り、人材特性を生かした適材適所、国際商流の循環強化による将来リスクへの対応、プロジェクトと製品の双輪事業体制の構築と支援組織との連携を進めます。

昭和時代の思い出

「理不尽な社会」への耐性

平成2年に大学を卒業した川越さんの昭和はイコール青春。今思えばコミュニケーション自体にハラスメントがたくさんあった。学校では先輩に呼び出されて殴られ、バイト先ではわけもなく怒鳴られた。「学生時代に理不尽を経験したこと社会に順応できた」と川越さん。ハラスメントを肯定するわけではないが、「清らかすぎる水で育った魚は汚い水に移ると生きられない」と指摘。「社会とは理不尽なものである」という認識がそこにはある。

OSAKA / TOKYO / SHANGHAI / LONDON / VIETNAM

川越政 株式会社

KAWAGOSHIMASA Co.,Ltd

【TEXTILE & GARMENT】
Specialized trading Company

川越政はオリジナルテキスタイルを多数ストックし、国内外のブランドへ販売しております。縫製までの一貫納品を実現し、ハイクオリティなリクエストにお応えできるエキスパートが皆様のご要望をお待ちしております。

川越政は2026年、70周年を迎えます
紡ぐ糸、繋がる心